



Cisco IT@Work 事例研究:  
製造、財務部門を  
Oracle 11i へ  
アップグレードする

Cisco Information Technology

August 8, 2005

- 課題

プロジェクトの規模(あらゆる部門に影響するほどの大きさ)

- ソリューション

アップグレードへの全社規模のコミットメント、および厳密なプロジェクト管理プロセス

- 成果

1回の週末での完璧なアップグレード

- 次のステップ

広域ディザスターリカバリ計画

パフォーマンス向上のためのコンテンツキャッシング

Linux のサポート

# 課題: リスクの軽減

- すべてに先立つ厳密なガバナンスの構築、コラボレーションチームの結成

Oracle プラットフォームを利用している社内の全組織でのニーズを明確にしなけりばならなかつた

- ダウンタイムの最小化

企業データへのアクセスは通常業務に不可欠だつた

- プロセス指向型の企業イニシアティブ

新しいプラットフォームは、システムやアプリケーションを複数部門にまたがって機能させるものでなければならなかつた

# ソリューション: 全社規模のコミットメント

Cisco.com

- 最優先のイニシアティブ

Oracle のアップグレードでは、プログラムの全期間を通じたエグゼクティブの最高水準での関与と、導入フェーズが中断されないようなリソースの優先的配分を実施

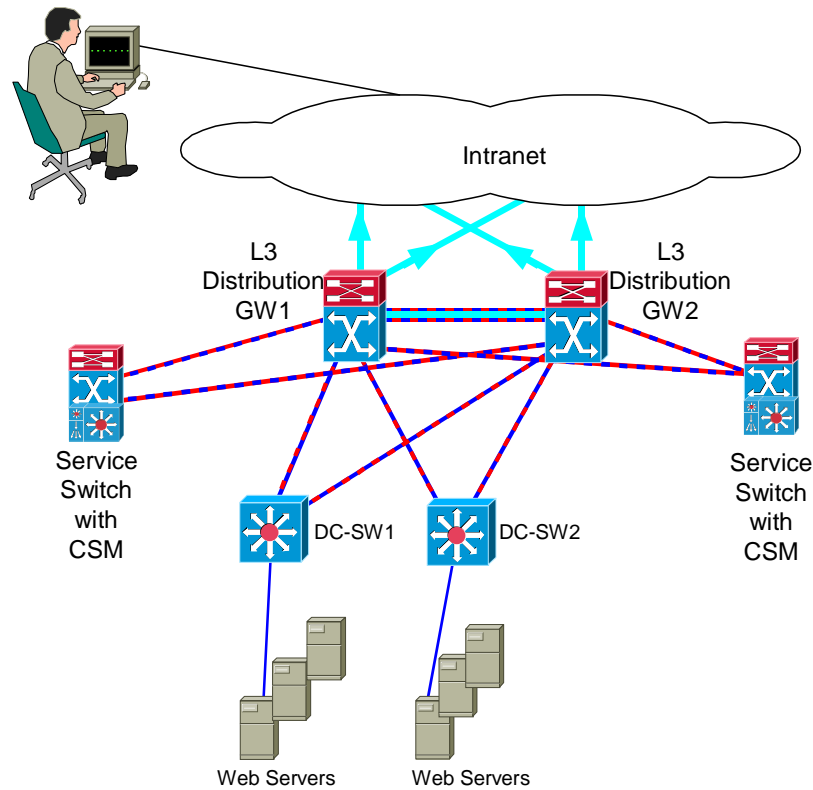
- データインフラ アーキテクチャの再構築

3層モデルによる軽量クライアントソフトウェア、組み込み型ロードバランシング、および新しいストレージエリアネットワーク

- 複数部門にまたがる厳密なプロジェクト管理

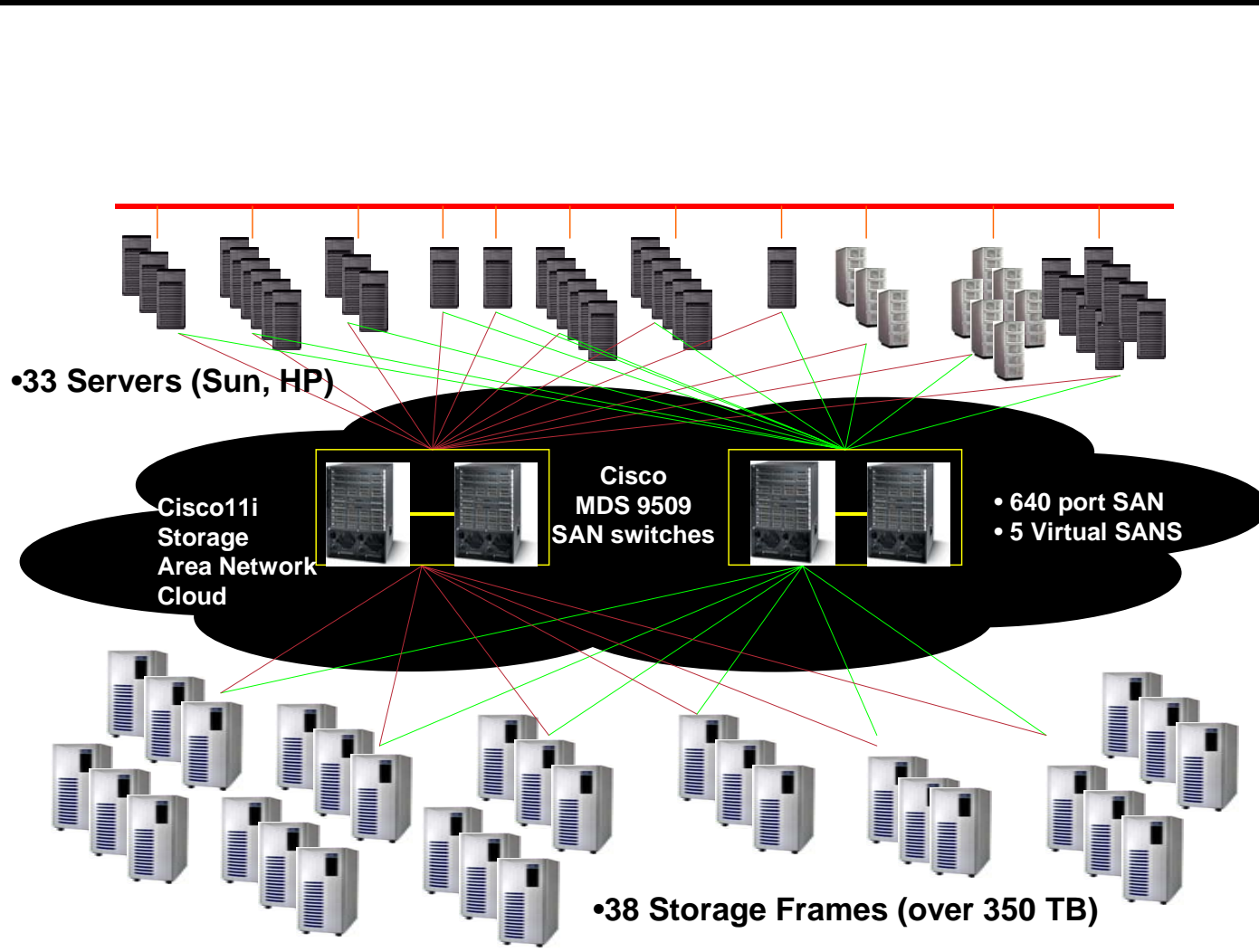
新しいソフトウェア構成管理 (SCM) プロセスを導入し、徹底的なリハーサルを行うことで、起こりうる全ての結果を分析

# 新しい高性能コンテンツ スイッチ モジュール



# ストレージ エリア ネットワークの再設計

Cisco.com



# 成果：完璧なアップグレード

- 2003 年末、Oracle 11i プラットフォームの導入に成功

新しいプラットフォームは3連休の週末を使って、製造と財務部門に展開された

- 企業データへのアクセス

展開の間、企業データへのアクセスが制限されたのは1日のみ

- 新しいユーザインターフェイス

ユーザインターフェイスに標準のウェブブラウザを使用することで、利便性が向上し、サポートも強化された

- 長期的視点に立ったアーキテクチャ

将来のシステム強化やプロセスの変更も大幅に合理化された

# 次のステップ: 今後の展開

- 広域ディザスタリーカバリ計画

現在、冗長構成されたデータセンターで行われている自動フェイルオーバーメカニズムによる保護と同様のバックアッププランで、域外のデータセンターもカバー

- コンテンツキャッシング

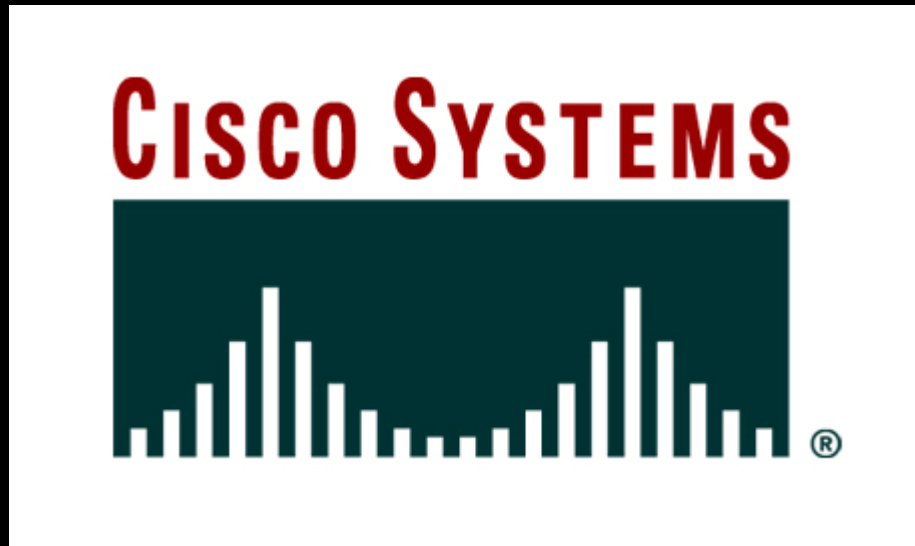
柔軟なアーキテクチャを取り入れた新しいストレージ エリア ネットワークにより、コンテンツをインテリジェントに配信

- Linux

Oracle 11i によるオープンプラットフォームでは、最新の Linux ベースのシステムやアプリケーションをコスト効率の良い Intel ベースのサーバと統合

その他、各ビジネスソリューションに対する Cisco IT の事例研究は、  
Cisco IT @ Work をご覧ください  
<http://www.cisco.com/jp> (シスコシステムズ→ Cisco IT @ Work)

Cisco.com



この文書に記載されている事例は、シスコが自社製品の展開によって得たものであり、  
この結果には様々な要因が関連していると考えられるため、  
同様の結果を別の事例で得られることを保証するものではありません。

この文書は、明示、黙示に関わらず、商品性の保証や特定用途への適合性を含む、  
いかなる保証をも与えるものではありません。

司法権によっては、明示、黙示に関わらず上記免責を認めない場合があります。  
その場合、この免責事項は適用されないことがあります。